



月刊

# オリーブ

2024

5

Vol.108

— 真の更生を目指して —

## 風に舞う花びらに思いを馳せ・・・



オリーブの家  
理事長  
青木康正

令和6年度、オリーブの家はお花見からのスタートとなりました。このところの天候不順に「お花見の時」がなかなか与えられず、ほんの束の間（4月2日久し振りの晴れ間）に急遽お花見のチャンスに恵まれました。風に舞う花びらを一身に浴びながらファミリーの皆さんお弁当に舌鼓です。オリーブの家では卓球大会、カラオケ大会と10周年（3月3日）を機にイベント盛り沢山！参加される皆さんの笑顔が私たちの励みとなっています。

さて、日々の生活の中で「余裕」を意識して生活している人は多くはないと思います。私も同様で振り返る76年間は、けっして「余裕」があったとは思えず、がむしやりに走った道のりだったと感じています。社会での信仰生活、更生保護の働きという世界に足を踏み入れたのも初めての経験で、ただただ御心のままにと歩んで参りました。

この私に「余裕」が持てたのは、76歳となり有限の命の終いを見つめることが出来る今だからかもしれません。荒ぶれた生活から15年の受刑生活通して聖書と出会い、福音の三要素を受け入れ、私は変えられました。受刑中の洗礼（滴礼）と、出所後の堅信礼（浸礼）が私の転機となっています。クリスチャンになる前と今の私との違いを一言で表現するならば「死生観」の違いだと思います。

通常、受洗者は水の中に全身を浸します（浸礼）。なぜなら、水に浸かることは古く自分が死んだことを表し、水から上がることは新しい自分が生きることを表しているからです。また全身ずぶ濡れになることは「イエス・キリストとの一体化」を意味します。このように、キリストに従順な生活を始めることを公に証するのが洗礼式です。しかし、「浸礼」での洗礼を受けたくも受

けられない方もおられます。体調を壊しベットの上的の信仰告白かもしれません。私が受刑中「滴礼」を受けたように施設では「浸礼」を受けることができませんが、皆さん心配する事はありません！形はともかく洗礼を受けた後の日々の聖化される（聖霊に満たされた状態）生き方そのものが一番大切なんです。クリスチャンになったからと言って試練が無くなるわけではありません。逆により多くの葛藤を覚えるでしょう。『主を信頼し全てを委ねる生き方』で、「余裕」が生まれるのだと思いますし、死生観が整えられるのだと思っています。その死生観が生き方を変えるのです。

ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。  
（コリント人への手紙 第24章16節）

## ファミリーの声

私がオリーブの家に来て2週間が過ぎました。恩師を通じて青木理事長と奥様（順子さん）との出会いがありご縁を頂いたことでオリーブの家での生活が始まりました。当時私には住む家も仕事もなくホームレス状態でしたので、こちらでの入居の許可が下りたときには正直ほっとしましたし、何より青木理事長や奥様、そしてスタッフの方々の温かさ誠実に救われた気がしました。こんなにダメ人間の私を受け入れてくださり、支え励ましてくださる皆様に勇気と希望をいただきながら人生の再スタートを踏み出せることに感謝の意を持たぬ日はありません。

迷いと疲れを感じていたというのが正直な私の本音です。しかし、皆様と接していく中で何かが変わり始めました。言葉で表現するのは難しいのですが、自分を変えたい、自分の人生を取り戻したいと言う私の内なる要求にスイッチが入りました。理事長はじめ皆様の意識、知識、経験が広く高いことや、自分を高め、清め磨くことへの意欲が強いことに私自身も刺激を受け、頭と心を同時に揺さぶられたような、それでいて、心地よいこの場の雰囲気にも身も心も委ねてみたいと思うようになりました。

ある本の一節に「過去と他人は変えられず、己と未来は変えられる」と言うものがありました。私はこの言葉を自分自身に言い聞かせ、自身の心に語り続けています。不器用でダメな人間が立ち直り新たな人生を送るために、またこれからの人生を意味ある価値あるものにするために必要なことだと考えています。価値ある出会いと価値あるチャンスをいただきました。変わるなら今です。

『今から、ここから、自分から』  
勇気を持って意義ある一歩を踏み出そうと思います。どうか皆様にも良き未来と救い導きがありますことを祈っております。

2024・4・4記 (Y・Y)

いよいよオリーブ農園の畑も春本番を迎え、新しい野菜たちの植付け作業に取り組み始めました。ファミリーのお一人が作業に加わってくださるようになったことで、作業もどんどん捗っています。まずは先月報告しましたジャガイモも順調に芽を出してくれて、元気に成長し始めました。沢庵も美味しく漬かって、オリーブの家の食卓に上っています。今月は夏野菜の植付けとして、ミニトマト・キュウリを植えました。また、落花生やオクラも別のファミリーの協力を得て種まきをしました。夏が来るのが待ち遠しいオリーブ農園です。

(農園長)

### 3月の農園だより



# 支援者からの

## 寄稿



### 東日本大震災から熊本大会まで

日本グループホーム学会

仙台大会事務局

横谷 聡一

#### 2. 東日本大震災発生

私たちのグループホームでは精神に障害のある方が生活しています。熊本での大地震で現地の方々は本当に大変だったかと思いますが、今回は東日本大震災の時、私が福祉の現場で体験したことを書かせていただきます。

2011年3月11日の午後14時46分、東日本大震災発生。ものすごい揺れにより停電、通信手段の遮断、断水などがあり、ホーム内ではガラスが割れて夜に台所に入れない状態となりました。精神に障害のある方の中には、こうした地震がなくても、障害特性として症状が一定ではなく、「波がある」特性を踏まえた支援が必要とされる

方がおられます。対人面の支援、服薬の支援、当事者の様子を見守り、個別の相談、周囲との調整にも配慮した支援により、心身ともに安定して地域生活を続けている当事者が多くおります。被災時にもその支援の必要性は変わりません。震災の際は、皆様もご存じの通り長期にわたって余震が続きました。精神障害を持つ方の中には身体の持病がある方もおられますので、眠れない日々が続く、持病が悪化してお亡くなりになる方もおられました。

災害はその地域で生活するすべての人が困り、体調に支障をきたす方も多いものです。震災で、私たち支援者は、被災者でありながら支援者であることの厳しさに直面することになりました。私は東日本大震災の当日は出張で東京にいたため、知人の協力で地元の仙台に戻ってきました。帰ってきた仙台の街は、全体の機能が崩壊したかの如く、交通機関も停止し、日に日にガソリンが無くなっていきました。

物資の確保について行政への要望を行うものの「避難所に行ってください」と言われ、避難所に向いても「受け入れの方で一杯、物資提供は出来ない」と言われます。水と食料の確保に奔走する中で、東日本大震災を体験するまで、危機管理の意識が低かったこと、これまでの地震の教訓を意識してなかったことを痛感しました。やが

て移動も通信も困難になりましたが、給水車等の大切な情報を、ホーム近隣の普段いさつを交わす地域の方からお聞きし、とても助かりました。これらのことから私が学んだことは隣人の大切さ、ごはんが炊けた時の感謝、命の尊さでした。

今回はこの緊急事態からの歩みのもと、地元グループホーム連絡会ができたことを中心にお届けしたいと思っております。

### 横谷 聡一

よこや・そういち



1972年生まれ。1998年より精神障害のある方々の支援に従事。宮城県仙台市で障害福祉サービス事業（グループホーム、生活介護、就労継続支援B型）を運営する社会福祉法人みんなの広場の理事長、総括所長をつとめる。  
東北福祉大学卒業、日本グループホーム学会副代表、日本グループホーム学会仙台大会事務局長、仙台市グループホーム連絡会副会長、東北福祉大学特別講師。2020年ハーベスト聖書塾を卒業（第39期生）。



オリーブの家で  
見つけた笑顔



今年のお花見会は、3月に来た新しい仲間も加わって14名で清流のそばの公園に行きました。満開の桜・美味しいお弁当に舌鼓を打ちました。3チームに分かれてのクイズ大会では皆さん大変盛り上がり、優勝チームには商品券が配られました。開放感あふれる屋外で最後は「君は愛されるために生まれた♪」を賛美し、お開きとなりました。



今日は気持ちの良い朝となりました！車から降りるなりウグイスの谷渡りが聴こえてきます。今年になって初めて、キレイな声で巧みにさえずっています。その流暢なこと！しばし聴き惚れました。いや〜お見事!!

副理事長 小原順子



### 2024年1月～3月会計報告

		1月	2月	3月
月次自立準備支援人数		4名/6室	3名/6室	5名/6室
グループホーム利用者数		8名/8室	8名/8室	8名/8室
累計ファミリー数		157名	157名	159名
収入	自立準備ホーム	812,592	733,746	546,610
	献金	1,021,500	905,100	701,324
	グループホーム	2,009,818	1,932,574	2,023,877
	その他	70,000	136,192	278,295
収入合計		3,913,910	3,707,612	3,550,106
支出	家賃	457,600	465,600	501,600
	水道光熱費	240,901	227,704	198,384
	食費	582,369	428,469	411,532
	人件費	2,160,360	2,030,944	2,057,589
	活動費	46,071	50,053	83,011
	その他経費	478,860	539,696	383,270
支出合計		3,966,161	3,742,466	3,635,386
収支合計		-52,251	-34,854	-85,280

前月繰越現金預金残高	4,803,957	4,201,111	4,494,612
翌月繰越現金預金残高	4,201,111	4,494,612	4,828,707
施設準備積立金残高	2,700,093	2,750,093	2,800,093

※ 収入その他には、物価高騰対策支援金152,640円が含まれています。

全国のおリーブの家をご支援くださる皆様へ  
私たちの罪・恥をみな背負って十字架刑で死んだイエスが復活して天の父のもとに戻られたことをこぼく季節です。その復活にあずかるオリーブの家やファミリーのおひとりおひとりの新しい歩みを、見守り、ご支援、お祈りくださる「証人」である全国の皆様に、感謝と祝福のお祈りをさせていただきます。

理事 今井洋子

<b>銀行振込</b>	肥後銀行（銀行コード：0182） 京町支店（支店コード：156） 口座番号：（普通）1574408 口座名義：NPO法人オリーブの家 トクヒ オリーブノイエ	<b>郵便振替</b>	銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：990） 口座番号：17180-5444801 口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家 口座名称（カナ）：トクヒ オリーブノイエ （他銀行からお振込の場合は） 店名：七一八（読み：ナナイチハチ） 店番：718 口座番号：（普通）0544480
-------------	--	-------------	--



月刊オリーブ  
2024年5月1日発行  
(毎月1回発行) 第108号

編集・発行 NPO法人「オリーブの家」  
〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201  
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com  
<http://seishoforum.net/olive-house/about/>

